

# ヘルスケア事業



## 市場環境認識

### 機会

- 医療人材不足を背景に、医療の高度化・効率化に向けた画像、AI、IT技術を活用した医療DXニーズが増加。
- 先進国を中心とした少子高齢化や医療費増大を背景に、早期診断、低侵襲医療ニーズが増加。
- アジアなど新興国における急速な経済発展と人口増・長寿化により、医療ニーズが増加、デジタル医療市場が伸長。

### リスク

- 不安定な国際情勢と地政学リスクに起因するサプライチェーンの乱れ。
- エネルギー、材料費、人件費高騰を背景にした医療機関の設備投資意欲低下の恐れ。

### 市場成長率

一般X線診断装置	+4%
超音波診断装置	+3%

※当社推定

## 前中期経営計画の振り返り

メディカルイメージング（ヘルスケア）事業では、前中期経営計画期間でDR一体型X線システムや動態解析などの高付加価値イメージング強化、医療ITサービス拡大を図るとともに、アジアを含むグローバルでデジタル事業を推進してきました。そうしたなか、新型コロナウイルス感染症拡大や国際情勢の変化により、電子部材調達や営業活動に制約が生じましたが、高付加価値イメージングと医療ITサービスを中心に堅調に推移し、デジタル事業の売上は伸長しました。

一方、プレジジョンメディシン事業では、精緻な検査であるRNA検査の拡大によるサンプル数増加を実現するほか、東京大学と国立がん研究センターとの共同開発による「GenMineTOP がんゲノムプロファイリングシステム」の開発を完了させました。また、アルツハイマー病の新薬開発にも貢献しました。しかし、米国での新型コロナウイルス感染症拡大の影響による医療従事者不足により、売上回復に遅れが生じました。

### 前中期経営計画の設定KPIと結果

	2022年度目標	2022年度実績
DR一体型X線システム、動態解析、アジア事業の売上高伸長率	+15%以上	+31%
医療ITサービスの売上高伸長率	+8%以上	+7%

# 新中期経営計画における戦略

## 基本戦略

ヘルスケア事業は、マテリアリティである「健康で質の高い生活の実現」を目指し、「早期診断」「医療費抑制」「QOL向上」に貢献する製品・サービスを提供します。強化事業のメディカルイメージング事業に経

営資源を重点的に配分し、中長期的な市場成長を見込む高付加価値イメージングや医療ITソリューションを中心に事業規模の拡大を目指します。長期的に成長ポテンシャルのあるプレジジョンメディシン

事業は、継続的に成長投資が必要であることから、これまで準備を進めてきた米国株式市場への上場に加え、当事業の成長加速の実現に向け第三者への事業譲渡も含めた戦略的選択肢の検討を進めます。

## メディカルイメージング

### 高付加価値イメージングの強化

X線画像診断分野では、コニカミノルタが世界で先駆けて提供している動態解析のグローバル展開と、KOL(キーオピニオンリーダー)との協働による臨床応用拡大を進め、動態回診車を含む高付加価値一体型X線システムの販売を伸ばします。超音波診断装置は、強みである高画質、穿刺強調処理などの補助機能を活用し、すでに高いシェアをもつ整形外科、産科に加えて麻酔科、透視科などのジャンルを強化していきます。

### グローバルでの展開拡大

X線診断装置や超音波診断装置などのモダリティとAIによる画像診断支援を組み合わせた高付加価値診療ソリューションのグローバル展開を拡大するとともに、PACS(医療用画像管理・転送システム)のASEAN地域への展開も強化し、デジタル事業の収益を伸ばします。加えて、それぞれの領域において強みを持つグローバルパートナー企業とのオープンな戦略的協業を推進します。

### 【戦略を支える強み】

- X線フィルムから続く90年の歴史を通じて培ったブランドと顧客基盤。
- 新たな臨床価値を共創するKOLとの関係性。
- コア技術に根差した動態解析含む「高付加価値イメージング」と「医療ITソリューション」に関わる技術。(→P38)
- KOLとの価値共創を支える高度専門人財(画像・AI技術、臨床開発、IoT)。

### 戦略的KPI(2022年度比)

主要なKPI	2025年度目標
DR一体型X線システムと動態解析の売上高伸長率	+140%
アジア事業の売上高伸長率	+155%
医療ITサービスの売上高伸長率	+145%

#### 高付加価値イメージング

- ・動態解析システム
- ・超音波診療ソリューション

#### 医療ITソリューション

- ・画像、線量管理システム
- ・infomity、医療DXサービス



### 医療ITソリューションの強化

医療ITソリューションは、国内約2万件の診療所とつながる医療機関向けICTサービスプラットフォーム「infomity(インフォミティ)」を軸に、患者と医療機関をつなぐ「スマートクリニックサービス」を新たに加え、診療所のDX化支援サービス販売を拡大します。

## プレジジョンメディシン

遺伝子診断領域では、独自技術である検査精度の高い「RNA検査」や予防医療に寄与する非罹患者向けの「CARE Program」を拡大していきます。また、「GenMineTOP がんゲノムプロファイリングシステム」(東京大学および国立がん研究センターとの共同開発)による国内での保険医療サービスを開始することで、個別化医療への貢献を推進していきます。

創薬支援領域では、中枢神経、がんの治験受託を拡大します。また、遺伝子、病理、画像データの統合プラットフォーム「LATTICE」を立ち上げ、REALM Pharma Servicesとして最先端の遺伝子検査と分子病理検査、3次元イメージングを提供することにより、創薬支援拡大に取り組み、創薬の成功確率向上、創薬プロセス効率化に寄与します。

### 【戦略の背景となる強み】

- RNA検査やエクソーム検査、バイオマーカーを用いた薬効の可視化など、競争力のある独自技術を可能とする人財と技術の蓄積